

令和5年度 学校評価（教職員）自己評価

1 開かれた学校づくり

重点事項	P T Aや学校評議員など関係団体等との連携
内容	<p>①教育方針や特色ある教育活動、学校評価などについての学校評議員の意見を把握し、教育活動の改善を進める。</p> <p>②様々なP T A活動やホームページ等を活用した広報活動を通して、生徒の状況や教育活動の現状について情報発信し、理解や協力を得る。</p> <p>③西高会・輔仁会・振興会・後援会などの支援団体から、生徒の教育活動に対する支援体制を確立する。</p>
具体的な取組	<p>①視聴覚機器・I C T機器のスムーズな運用、旅行的行事（宿泊研修、見学旅行、遠足等）の見直し</p> <p>②Google クラスルームや緊急メールシステム等の安定運用およびペーパーレス化、西高ウェブページの運用や学校見学会を柱とした効率的な情報発信</p> <p>③支援団体との連携を密にして、キャリア探究学習をはじめとする教育活動の充実・発展、西高グローバル・エデュケーションの支援・協力</p>
実施状況・教員意見等	<p>①・Wi-Fiを体育館に常備、また、移動式Wi-Fiも使用可能となった。さらに設置場所に関する要望も検討中である。ChromeBook（クロームブック）の使用方法については検討が必要である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和6年度入学生は宿泊研修中止、見学旅行3泊4日へ変更する。その他については、引き続き検討し、本校のスタイルを確立したい。特に、宿泊研修については「教育的効果がある」、「冬季スポーツに触れる機会の設定という面からスキー研修の実施は」といった意見もある。行事の精選や教員の働き方改革も含め、来年度、検討する。 <p>②・Google クラスルームの活用は順調であり、生徒、保護者ともに活用ができています。ペーパーレス化や教員の業務軽減の一部にもなっている。緊急メールシステムは引き続き使用する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進路や学力に関するデータを分析し、進路情報等を生徒や保護者に適切に提供できるよう、模擬試験の結果だけではなく、P T A進路研修会等を通じて、保護者にも入試関連情報を提供することができた。 ・学校見学会は来年度も引き続き同じ形式で行っていく。遠方の生徒のためにZOOMまたはGoogle クラスルーム等での参加も可としたい（※経費の確認が必要）。行事名を「学校見学会」から「学校説明会」に変更する。 <p>③・輔仁会の全面協力による1学年キャリア探究学習の実施、西高会・振興会からの部活動等補助事業等は生徒の教育活動に大変プラスとなっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・西高会の支援があり、アイルランドやシンガポールへの国際交流研修事業を今年度も実施できた。アイルランド研修では、現地でトラブル（ロストバゲージ、体調不良生徒等）が発生したが、引率者を今回から2名にしたことで対応できた。西高会に感謝したい。持続的なものにするには、最低でも2名は必要である（英語が話せる人、女子生徒対応として女性教員は必須条件か。教員が難しい場合の保護者派遣の検討は可能か）。 ・現在の海外研修は、予算面から参加できる人数は限られてしまうので、現地に行かず札幌またはその近郊で参加できるプログラムも考えるべきか（留学生とのワークショップや合宿、海外からの訪問受け入れなど）。

2 生徒の資質・能力の伸長を図る学習活動の充実

重点事項1	多様で質の高い「深い学び」を引き出す授業等の実施
内容	○各教科・科目における「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に意味や価値を創造したりすることに向かう「深い学び」の授業を展開し、可搬性、活用可能性、持続発展性が高く実生活で活用できる学びを実現する。
具体的な取組	① I C T機器を利用した学習指導 ②公開授業を含めた教科の枠を越えた効果的な授業研究の在り方についての工夫・改善、西高スタンダード（深く、しっかりした学び）の継続・発展
実施状況・ 教員意見等	①・ I C T機器を利用した学習指導は、次年度以降も職員全体で検討していく課題である。教員研修は全体で行うよりも、教科ごとに推進すべきか。ロイロノートを利用した授業者がごく少数であり、その有効性を広く周知して、まずは使ってみることを進めていきたい。また、本校の生徒の実態を踏まえると、オンデマンド方式での利用が向いているのではないかと。 ・いよいよ来年度は1人1台端末保有完成年度であり、ChromebookではなくiPadへの変更を検討したが、現状の利用状況を踏まえても、機種変更のメリットは薄い。購入させないなら、学校で必要台数を購入しなくてはならない。これは現実的ではない。3年目を終える来年度に向けて再度検討か。まずはI C Tを用いた授業改善を前提に、タブレットの機種を考えるべきである。 ②・ 今後も教科指導の工夫・改善に係る研修を活用し、西高スタンダードの継続・発展を推進したい。 ・ 1学年では、学習の定着度について、模擬試験や定期考査など、客観的なデータを分析し、その結果により、手立てを検討した。また、生徒個々の学習計画表の作成、担任や教科担任による面談、学年集会での講話などを実施した。引き続き、データの収集とその評価を繰り返す。一方、学年会議や担任会では、学習の定着度や学習状況について話し合う機会が少なかった。それを捻出するため、今多くの時間を割いている業務を再検討する。

重点事項 2	授業と個別学習を有機的につなげた学習体制の確立
内容	○学校における教育活動と家庭等における個別学習の特長を互いに生かしながら生徒の資質・能力の伸長を図る。
具体的な取組	①BYOD 2年目となり、ICTを活用した授業等の学校生活の充実につなげる西高スタイルの構築 ②学習効果を高めるICT活用の研究と検証を進めるため、校内研修を含めた研修体制の充実 ③進学講習の実施
実施状況・教員意見等	①BYOD 2年目としてICTを活用する場面・機会が学校全体として増加してきている（授業やホームルーム、キャリア探究、総合的な探究の時間、学校行事、保護者懇談会、進路研修会、欠席連絡フォーム、Google クラスルームなど）。 ②・授業での指導方法の一つの手段としてのICT活用の研究、研修を継続して実施していく。 ※ 上記 2-1 ①も関連（p.2 参照） ・3年生では、多くの生徒は授業に集中して臨んだが、一部受験しない生徒、また、当該科目を受験で使わない生徒のモチベーションを維持するのに苦勞する場面があった。入試に向けて意欲をもって取り組む生徒の妨げにならないよう、個々の生徒に指導していく必要がある。 ③・進学講習の設定意図などを明確にして、講習（計画・依頼）が円滑に進むようにする。 ・講習の目的・レベル設定・対象等をうまくコントロールすることができなかった部分が一部あった。目標としていた「受講生9割の出席」は、平均すると達成できなかった講習もあるが、平均して8割以上の出席率で、概ね計画通り実施することができた。 ・1学年は、各学力層へのアプローチの一環として、冬期講習後期では、メンバーを超難関校志望者に絞り実施した。参加率、参加態度ともに良かった。この集団が拡大していくように今後も支援する。学力下位層に対する個別対応は、今後も検討が必要である。 ・2学年は、2年前半まで土曜講習・夏期冬期講習での国数英の基礎固め、2年後半からの期間講習での理社の受験対策及び難関大指導準備という西高の進路指導部の講習計画に従って、充実した学習指導・進路指導ができています。模擬試験や講習参加率も悪くなかった。 ・進学講習に対する生徒のニーズは高い。申込案内で、講習担当教員を示してほしいという声もある。一方、長期休業期間中の講習について、講習期間が週休日2日間を含めた日程で実施しており、講習担当者はかなりの負担となっている（講習前後の平日勤務があり連続勤務、家庭事情、ライフワークバランスがとれない）。これらの課題について、教員アンケートの実施や外部講師の依頼、講習の型のあり方（対面型に限らず、配信型、オンデマンド型など）等を検討すべきではないか。 ・1学年担任は、特に12月、土曜講習・保護者面談・冬期講習が重なり、非常につらい期間となった。改善できないか。

3 リーダーシップ教育の推進

重点事項	自主的・自発的な活動の充実
内容	○生徒会活動やホームルーム活動、部活動などの自主的・自発的な活動を通して、よりよく解決するために課題を見出し、解決するために話し合い、合意形成を図り、実践できるリーダーとしての資質・能力を育成する。
具体的な取組	①西高祭の実施、今後の在り方の検討 ②部活動の改廃の検討
実施状況・教員意見等	①・学校祭の意義、西高校の学校祭の特色、生徒・教師にかかる負担を考慮しながら、大枠となる日程や具体的な問題解決を話し合う。職員反省、生徒反省をもとに生徒会執行委員会と協議し、職員会議で審議し、今後の方向性を提示する。 ・花火の打ち上げについて検討課題となっている。また、細案提出前に特にバザーのあり方について審議できるようにしたい。花火の経費については、西高会から補助を受けているので、その意見も聴くべきである。 ・学校祭の3日間日程は、コロナ禍明けで徐々に戻した形で実施したところであり、今年度を含め数年経緯を見てから検討してもよいのではないかと。 ・保護者や地域住民、学校評議員からも、学校祭についてこれまで高い評価をいただいている。外部の意見や期待にも応えられる西高としての学校祭を実施していくべきではないかと。 ②生徒会執行委員会と協議しながら、現状把握から将来的な展望を示してきた。段階的に進めていく中で、来年度、いくつかの部活が統合や廃部となる方向である。3月の生徒大会で決定したい。改廃規程を新たに定めていきたいが、来年度以降の課題とする。

4 キャリア教育の推進

重点事項 1	探究的な教育活動の充実
内容	○課題の設定、情報の収集、整理・分析、まとめ・表現のプロセスを重視した教育活動を通して、課題発見・解決力、情報収集力、論理的思考力、コミュニケーション力、表現力などを身に付け、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を育む探究活動を充実させる。
具体的な取組	①総合的な探究の時間の充実 ②総合的な探究の時間やキャリア探究学習のねらいの明確化を図り、プロセスを適切に評価するため、ルーブリックの活用など、評価方法の研究や検証 ③支援団体との連携を密にして、キャリア探究学習の充実・発展
実施状況・ 教員意見等	①・現在の形で2学年の探求は3年間実施した。総合的な探究の時間は、現在2・3学年で実施している。内容や指導體制について検証するとともに、令和7年度入学生からの教育課程に反映させるべく、現在、教育課程委員会でプログラムを含め検討中（1年1単位、2年2単位の方向で）である。 ・2学年の探究活動は充実した内容で実施できた。探究担当教員や学年団教員全員の協力で手厚く指導することができた。 ②・相互に発表したり意見交換したりする中で、探究課題についてさらに深めることができた生徒が多く、また、課題発見・解決力、情報収集力、論理的思考力の向上を目指した活動を展開できている。 ・自身の興味や関心から「問いを立てる」作業に時間がかかり、苦勞する生徒が一定数いるので、時期を区切って次のステップに進むような活動計画でもよいかもしれない。 ・ルーブリックなどを活用して、評価基準に基づいた評価やその研究を行い、探究的な学習活動をさらに充実させていくことが重要である。 ③・今年度も輔仁会の協力により、職業観・勤労観を育成することをねらいとして実施したキャリア探究学習により、情報収集力、コミュニケーション力、表現力の向上を目指した活動を展開することができた。 ・キャリア探究活動は継続するが、開催時期に関しては検討課題だった。開催時期は11月を予定している。

重点事項 2	高等教育機関等との連携
内容	○大学の専門的な学びや教育研究にふれることを通して、職業観や勤労観を高めるとともに、主体的に科学を究め、生徒の学習意欲や進路意識を高めることを目指した高等教育機関等との連携を進める
具体的な取組	①生徒の学習へのモチベーションや進路意識高揚のため、計画的な実施 ②北海道大学研究室訪問など、理系・文系に問わず、あらゆる学部との連携を強化した内容の充実
実施状況・ 教員意見等	①大学説明会やオープンキャンパス等への積極的な参加を促した。 ②・進路講演会、北大研究室訪問、東大宇野ゼミ参加（札幌南高校で実施）などを通して、進路意識の高揚や適性に関する自己理解の深まりが見られた生徒も多くいたが、まだ不足している生徒も多いので、啓発・相談を引き続き実施したい。 ・課題探究型医療プログラム（TEMP）は、新指導要領下の指導にも対応すべく内容の充実を検討し実施している。 ・進路講演会は、内容と対象生徒の検討を行う。